

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 22 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20500539

研究課題名（和文） 総合型地域スポーツクラブと運動部への追跡調査による生涯スポーツ社会構築の可能性

研究課題名（英文） Toward Life-time Sports Society via Longitudinal Survey of Sports Club Activities in the Community and Extra-curriculum of School

研究代表者

海老原 修 (EBIHARA OSAMU)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：50185138

研究分野：スポーツ科学

科研費の分科・細目：スポーツ社会学

キーワード：生涯スポーツ／総合型地域スポーツクラブ／学校運動部

## 1. 研究計画の概要

生涯スポーツ社会構築に向けての基礎研究となる本研究では、総合型地域スポーツクラブ、運動部に参加する成人男女、小学生、中学生、高校生への縦断的な追跡調査を通じて、(1) 総合型地域スポーツクラブ事業展開と地域住民のスポーツ実践の関連性を検証する、(2) 総合型地域スポーツクラブ事業と学校運動部の複合的なプログラム展開が子どものスポーツ・キャリアに及ぼす影響を明らかにとする（スポーツ離れの実態と体力低下の関連など）、その上で、(3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた地域におけるスポーツ環境の整備充実方策モデルのフィードバック・フィードフォワード・システムを実証的に検討することを目的とする。

## 2. 研究の進捗状況

生涯スポーツ社会構築に向けて、当該地域で展開されるスポーツ・プログラムへのモニタリング調査を通じて、(1) 運動・スポーツ実施状況、スポーツ施設利用状況、学校運動部やスポーツ少年団との連携状況、中高年齢者や障害者のスポーツ参加状況など、地域住民のスポーツ動向を的確に把握すること、(2) 彼らの運動・スポーツへのニーズを社会資本の効率的な応答の範囲で即応できるスポーツ政策やスポーツ・プログラムを提供できるシステムを構築することが必要である。成人から小中高校生のスポーツ参与に関する実態調査を初年度に引き続き実施した。回収状況は、山形県鶴岡市・7 総合型地域スポーツクラブ（730 件回収／2030 件配布=35.96%）、SSF 笹川スポーツ財団スポーツエイド事業・22 総合型地域スポーツクラブ（子ども調査（233/280=83.21%）；成人調査（389/475=81.89%））であった。子どものスポ

ーツ参加モデルを横断的な分析の視点より検証し、日本体育学会にて口頭発表し、本研究調査への援用を試論した。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。山形県鶴岡市の総合型地域スポーツクラブ、(財) 笹川スポーツ財団スポーツエイド支援の総合型地域スポーツクラブへの3カ年の追跡調査を済ませ、最終年度には平成20年度と同様に神奈川県鎌倉市小5年生、中2年生と同様の調査を実施し、平成20年度小学5年生と平成23年度中学2年生をコーホートの的に分析する。

## 4. 今後の研究の推進方策

4年間の追跡調査となる項目は、(1) 個人的属性、(2) 過去1年間の運動・スポーツ実施状況、(3) 定期的な運動・スポーツ実施状況、(4) 運動・スポーツ実施希望状況、(5) 運動・スポーツへの態度などである。併行して、子ども調査に関連する就学前児の運動・スポーツの状況に関する内外の調査をまとめて報告した。平成22年度以降の追跡的調査によって、その変動を出生コーホート分析とスポーツ・キャリア分析によって同定する計画である。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

①海老原修（2010）：「運動しない」女子生徒のスポーツ・キャリア～スポーツに結びつかない運動遊びと体育の可能性～、日本体育学会社会体育専門分科会発表論文集、24-29、査読(有)

- ②工藤保子・海老原修（2010）：男女の運動・スポーツ格差を探る～SSF 子ども・青少年スポーツライフ・データ 2010 から～、日本体育学会社会体育専門分科会発表論文集、30-34、査読(有)
- ③海老原修（2008）：子どもの身体活動に必要なスペース、体育の科学 58 巻：610-616、査読(無)
- ④海老原修（2008）：生活環境と活動量、子どもと発育発達 6 巻：94-98、査読(無)
- ⑤海老原修（2008）：校庭がこう変わる、子どもと発育発達 6 巻：206-211、査読(無)

〔学会発表〕（計 3 件）

- ①海老原修（2010）：「運動しない」女子生徒のスポーツ・キャリア～スポーツに結びつかない運動遊びと体育の可能性～、日本体育学会第 61 回大会、平成 22 年 9 月 8 日
- ②工藤保子・海老原修（2010）：男女の運動・スポーツ格差を探る～SSF 子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2010 から～、日本体育学会第 61 回大会、平成 22 年 9 月 8 日
- ③海老原修ほか（2010）：子どもの歩数と生活環境の関係について、日本発育発達学会第 8 回大会、平成 22 年 3 月 28 日

〔図書〕（計 2 件）

- ①海老原修ほか（2010）：青少年のスポーツライフ・データ 2010、笹川スポーツ財団、183 ページ
- ②海老原修ほか（2010）：子どものスポーツライフ・データ 2010、笹川スポーツ財団、119 ページ